

第2章 基本理念

1) 基本理念の設定にあたって

日本の動向



- 少子高齢化・人口減少社会の到来。
- コミュニティの希薄化。
- 社会的孤立、貧困、新型コロナによる新しい生活など、課題は多種多様。
- 解決には地域力の強化とその持続可能性を高めることが必要。
- 「受け手」「支え手」でなく、誰もが役割を持ち、活躍できる「地域共生社会」の実現が必要。
- 生活困窮にある高齢者など、複合課題の解決に包括的な支援体制の構築が必要。

各種調査結果



八尾市の特性



向かい風

- 近所づきあいの低下（特に若い世代）。
- 自治会・町会の加入率の低下。
- 地域活動が低下している。
- 少子化によりこども会が減少。
- 新型コロナの影響で孤立や差別、生活困窮が進む。
- 地区福祉委員会、民生委員・児童委員等の福祉関係者の後継者不足、担い手不足。
- 福祉関係者も疲れている。

追い風

- 地域活動への参加意向はどの年代も高い。
- 「自分に合った活動」「仲間づくり」は地域活動の促進のキーポイント。
- 各地区とも試行錯誤による魅力的な活動を展開。
- 新型コロナにより、新たな活動が展開。
- 福祉関係者は楽しく活動、おせっかい好き。
- 「まつり」は地域をつなげる起爆剤。



河内音頭でギネス世界一の八尾市。まつりはつながりのきっかけに、そのつながりが支え合い・助け合いに、そして「ほっとかれへん」気質が困っている人に手を差し伸べる。相乗効果の「おせっかい」が八尾市のいいところ。

社会福祉審議会における議論

おせっかいのイメージ



- 関わりを拒否している人に対して「つながれる」すばらしい言葉である。
- おせっかいからつながる何かがある。ねばり強く関われる言葉。
- おせっかいはマイナスイメージもあるが、高齢者に対する悪質商法や詐欺などの消費者被害やこどもの安全に対しては「おせっかい」は必要。
- アクセスしてこない人に対して積極的な関与が必要なケースがある。例えば、虐待、高齢者など。自分から助けを求めることが困難な場合、この関与をあらわすのに「おせっかい」はよい。
- 「おせっかい」は八尾にもってこい。
- 高齢クラブの活動はまさに「おせっかい」なしではできない。

手と手を



本計画のめざす姿

- 包括的な支援により、すべての市民が夢や生きがいをもって、孤立することなく住み慣れた地域で自分らしく暮らしています。
- 地域において、住民一人ひとりが尊重され、お互いの多様性を認めながら、支え手側と受け手側に分かれるのではなく、それぞれが役割を持ち、支え合うことで、自分らしく活躍しています。

2) 基本理念

誰ひとり取り残さない しあわせを感じる共生のまち ～ おせっかい 日本一 ～

地域福祉のめざすところ



- 「受け手」「支え手」でなく、八尾市の誰もが役割を持ち、活躍できる「地域共生社会」の実現が必要

八尾市のピンチ(課題)



- 近所づきあいの希薄化
- 地域活動への参加率は高いといえない
- 福祉の担い手が不足(特に若い人)
- 支援が必要な人は今後も増加

おせっかい
日本一

八尾市はこんなところ



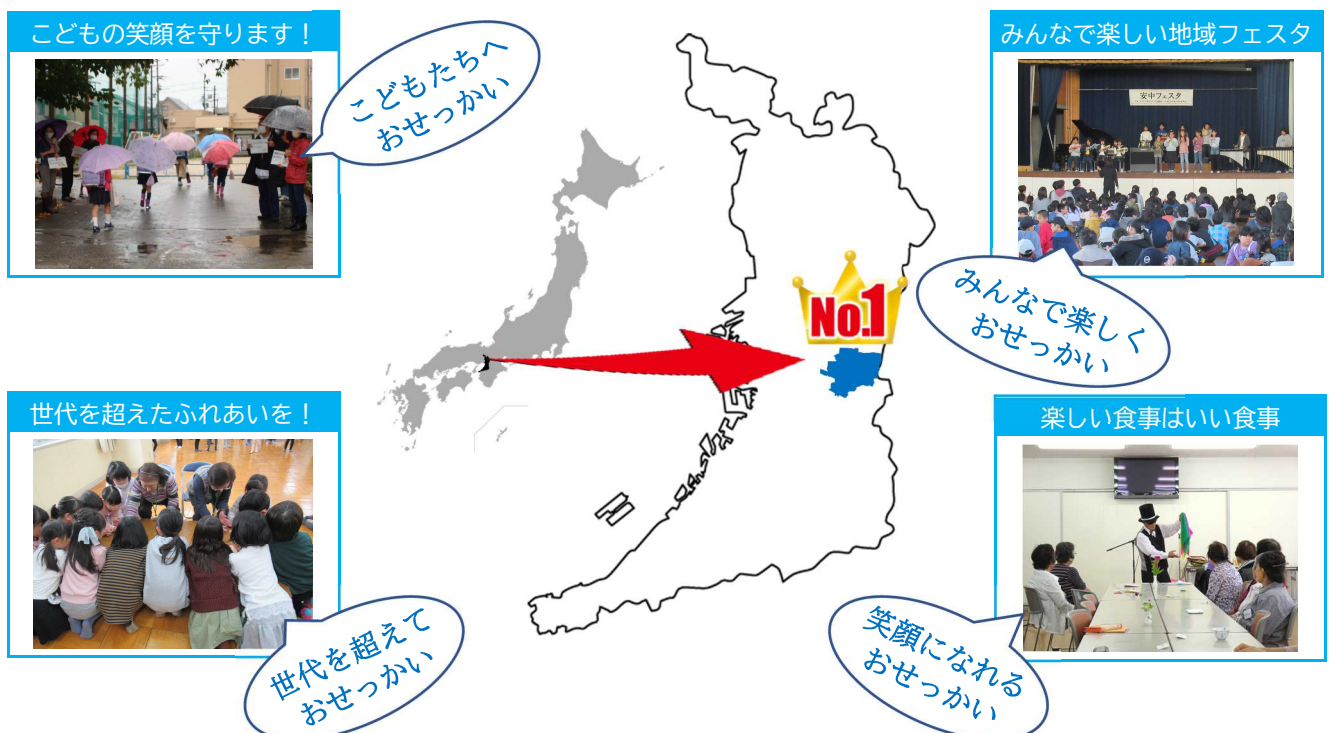
- 時代・世代を超えた河内音頭はまちを一つにつなげる
- このつながりは、毎日の声かけに
- 「声かけ→つながり→ほっとかれへん→おせっかい」に発展

福祉の追い風



- 今後地域活動に参加したい人は多い
- 参加促進には「自分に合った活動」「仲間づくり」
- 新型コロナでも何とかする担い手が多い
- 昔から地域活動が盛ん

マイナスイメージもある「おせっかい」、本市では、困っている人を放っておけない八尾市民の「ほっとかれへん」「おもいやり」の気質が生み出す「おせっかい」を天分ととらえ、この「おせっかい」によって「誰ひとり取り残さない しあわせを感じる共生のまち」をめざします。



3) 基本目標と計画の体系

基本目標として、「1 身近な地域でつながり支え合う基盤づくり」「2 多様な主体の参加支援と連携・協働の推進」「3 身近な地域で支援が届くしくみづくり」の3つを定め、その達成に向けた実行計画を推進することにより、基本理念である「誰ひとり取り残さない しあわせを感じる共生のまち ～ おせっかい 日本一 ～」の実現をめざします。

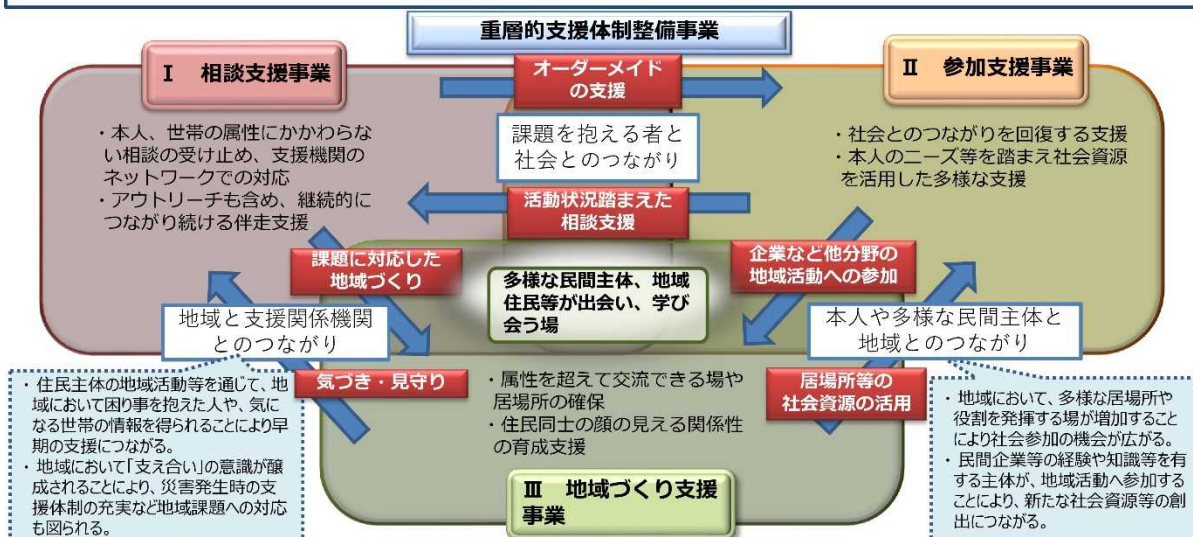
また、3つの基本目標の達成に向けて取り組むことで、本市での重層的支援体制の構築を行います。

基本計画		実施計画	
基本理念	基本目標	実行計画	具体的には
誰ひとり取り残さない しあわせを感じる共生のまち ～ おせっかい 日本一 ～	1 身近な地域でつながり 支え合う基盤づくり	(1)地域福祉への意識、関心の啓発・醸成	① 地域福祉のおもしろさを拡散する ② 福祉のこころを育てる ③ 人権の視点に立った地域をつくる
		(2)地域力向上に向けた支援	① 地域の「やってみたい」「やってみよう」を応援する ② 地域づくりのプロフェッショナルをつくる ③ 地域福祉活動の見せる化
		(3)見守り・早期発見のしくみづくり	① 地域の「見つける力」を高める ② 地域の「見つける力」をつなげる
	2 多様な主体の参加支援と 連携・協働の推進	(1)幅広い市民の参加促進	① 交流の場、居場所づくり ② 地域で活動する場や機会をつくる(おせっかい活動をひろげる)
		(2)地域福祉の担い手のすそ野拡大	① 「おせっかい人材」を見つける、育てる ② ボランティア団体を地域へつなげる ③ たすけあい有償活動をひろげる ④ 福祉のプロを育てる
		(3)多様な主体との連携強化	① 企業・NPO・学校等とつながる ② 社会福祉法人の活躍の見える化 ③ 八尾市社会福祉協議会とともにめざす「地域福祉の推進」
	3 身近な地域で支援が届く しくみづくり	(1)地域の権利擁護の推進	① 暴力・虐待に「気づく」「見つける」「声をかける」「つなぐ」 ② 認知症になっても、障がいがあっても自分らしく暮らせる
		(2)生活困窮者への支援	① 誰ひとり取り残さない相談窓口 ② 自立への支援 ③ たくさんの人や支援がつながる
		(3)災害時要配慮者への支援づくり	① 災害時要配慮者への支援づくり ② 発災時に備えた日ごろからのつながりづくり
		(4)支援機関協働による地域生活課題を解決するしくみづくり	① 断らない相談支援体制づくり

重層的支援体制の事業イメージ

「相談支援事業」、「参加支援事業」、「地域づくり支援事業」の相互関係

- 「相談支援事業」、「参加支援事業」、「地域づくり支援事業」の3つの事業について、それぞれが連携し、一体的に実施されることで、以下のような効果が期待される。
 - 相談支援事業で浮かび上がったニーズについて、参加支援事業を通じてオーダーメイドの社会参加のメニューが実現する。また、参加支援事業の活動を通じて把握される本人の状況を踏まえた相談支援事業を行うなど支援の充実が図られる。（相談支援事業の充実・社会参加メニューの充実）
 - 地域づくり支援事業と参加支援事業の推進により、企業等も含めた多様な主体について地域活動への参加がすすみ、地域において多様な居場所や社会資源が開拓される（地域資源の開拓）
 - 地域づくり支援事業の推進により、地域で人と人との多様なつながりがつくられ、一人ひとりが社会参加できる地域になるとともに、地域住民の気づきが生まれやすくなり、課題を抱える個人が相談支援事業へ早期に繋がりがやすくなる。（地域の支え合い）
- 多様なつながりが生まれやすくする環境整備を進めるためには、行政、株式会社やNPO法人等の多様な民間主体、地域住民等が出会い、学びあうことができること（プラットフォーム機能）が効果的である。



(出典：厚生労働省)

※本市の「基本目標1」は国の「地域づくり支援事業」、「基本目標2」は「参加支援事業」、「基本目標3」は「相談支援事業」に対応しています。



紅たでさんのコラム

「誰ひとり取り残したくない私の思い」

令和2年（2020年）8月に本市では特別定額給付金の申請を出さなかった方への訪問勧奨事業（訪問して申請を出してもらうように呼びかけをする事業）を行いました。

特別定額給付金は、すべての市民にひとり10万円をお渡しする事業です。新型コロナの対策で、すべて郵送で申請するしくみでしたが、高齢者を中心に、書き方の分からない人が市役所にたくさん来られました。その様子を見て、他にも申請ができない人がいるんじゃないかと思ったのがこの事業をやろうと思ったきっかけです。

さまざまな理由で申請できなかった人が申請につながった一方、手続きが面倒だという人、住所を置いたまま所在の分からない人、近所との交流が全くない人など、地域とのつながりが希薄な方の存在が明らかになりました。また、訪問の結果、申請が出ていなかったのは、高齢者よりも40代、50代の方で、男性のひとり暮らしの人が多くという結果になりました。

この事業を通じて、地域のつながりの大切さや制度の狭間にいる人への支援の必要性を強く感じました。地域共生社会づくりに向けた地域づくり支援、参加支援、相談支援を充実させていくことが本当に必要だと実感しています。

私は、たくさんの人に理解をしてもらって、一緒に考えて行動してもらうことで、誰ひとり取り残さない地域づくりを進めていきたいと思っています。